

グローバル化の急速な進展により本県でも、国際社会で貢献し活躍できる人材の育成が必要です。そのためには、今後、本県の未来を担う児童生徒の英語力の着実な向上と外国語による実践的なコミュニケーション能力の向上が必要となっています。

ここでは、県で取り組んでいるグローバル社会で活躍するための取組について紹介します。



▲笠間市立笠間中学校 授業の様子

小学校の英語教育の充実

現在、小学校では、小学5・6年生において、外国語に慣れ親しむため「聞くこと」「話すこと」を中心とした「外国語活動」が行われています。また中学校では、「読むこと」「書くこと」を加えた「英語」の授業が行われています。

平成32年度に小学校で全面实施となる新学習指導要領では、現在小学5・6年生で行っている「外国語活動」が小学3・4年生から必修化され、小学5・6年生では「英語」が教科化されます。中学校では小学校での学びを踏まえ、コミュニケーション能力を育成することとしています。

着実な英語力の向上のために

県では児童生徒の英語力を着実に高めていくために、小学校・中学校・高等学校のそれぞれ段階に応じた取組と英語教員の指導力向上のための取組を行っています。

その取組のいくつかを紹介します。

〈小学校〉

●小学校共に学ぶ英語推進事業

普段から英語の音や日常会話などに慣れ親しませるため、県独自の英語の歌や日常生活の会話例などを収録した英語CDの活用を行っています。児童用ワークシート・教員用解説本を作成し、朝や休み時間、外国語活動の時間などで活用し、小さい頃から英語に慣れ親しむことを進めています。

めています。

〈中学校〉

●英語力アップサポート

グローバル化に対応できる人材の育成のため、全公立中学校2年生を対象にタブレット端末を利用したスピーキングチェックを実施します。これにより、生徒個人の「話す力」の現状を課題を見つけ、その結果を生徒の学習内容、学習の仕方や教員の毎日の授業改善につなげることで、英語力向上の一助となることが期待できます。

〈高等学校〉

●英語ディベート指導法研修

新学習指導要領では、生徒の4技能（聞く）「話す」「読む」「書く」を総合的に育成することが求められており、設定された議題に対して英語で討論するディベートは効果的な活動です。平成26年度から30年度までに、県立高等学校等のすべての英語科教員を対象に実施し、教員自身が実際に授業で使えるディベート活動や試合を体験すること、授業改善につなげ、すべての学校で生徒が英語を使う機会を増やしています。



▲英語ディベート指導法研修会の様子

☆ 学校での取組 ☆

〈笠間市〉

笠間市では、市教育委員会が中心となって、児童生徒の英語力向上のため着実な英語の授業づくりが進められています。今回は、笠間市立笠間小学校と笠間中学校の授業を通して、笠間市の英語教育の取組について紹介します。

◆授業展開の工夫

小中学校とも共通して児童生徒が授業全体の流れが分かるように、活動内容を英語で書いたカードを黒板に掲示し、視覚的にも捉えやすくしています。また、一つの活動を7分前後で抑えているため、授業がテンポよく進み、児童生徒が集中して意欲的に取り組んでいます。授業は、全て英語で行われており、楽しく学んでいます。

◆教師の役割分担の明確化

小中学校どちらもJ・T・E（日本人英語教師）とA・E・T（英語指導助手）のT（ティーム・ティーチング）により、それぞれの活動に応じた役割分担が適切かつ明確で、スムーズに授業が進められています。

笠間小では、担任の先生も積極的に活動に参加することで、児童の支援に努め、きめ細やかに授業が展開されています。

◆音声重視した指導

小学校、中学校とも授業の前半に発音練習があり、児童生徒が英語の文字と音声を意識しながら発音練習をするよう意図的に単語を選んで授業をしています。児童生徒は、初めて見る単語でもこれまでの授業で得た知識と感覚で正しく読め

るよう工夫されています。

◆小中高連携を踏まえた指導

小中高を通じた英語教育を推進するため、英語教育連絡協議会を通して授業参観や研究協議を実施しています。

これにより、中学校の英語教員は、小学校の授業の様子や児童の学習状況を把握して指導することができ、中学校1年生の英語学習へのスムーズな接続がなされています。

◆学校と市教委との連携

笠間市では、学校によって授業内容に大きな差が出ないように授業の流れを統一したり、AETコーディネーターの配置やAETの定期的な研修、電子黒板などICT機器を導入したり、「笠間スタイル」の英語教育が確立されています。



▲笠間市立笠間小学校 授業の様子

色々な活動を通して楽しく学ぶことができます。
英語の授業は、大好きです。



笠間小学校
5年 小林 翼さん

〈県立大洗高校〉

県立大洗高校では、アクティブラーニングの視点に立った授業や電子黒板、タブレットを活用したICT教育を実践しています。

また、少人数教育を行っているのも特徴で、生徒の習熟度別に授業を行っています。高校の英語の授業は基本的にすべて英語で行われますが、大洗高校では少人数教育の効果で教員と生徒、そして生徒同士がコミュニケーションが取りやすい環境となっています。

これにより生徒たちは主体的に取り組む楽しく英語を学んでいます。



▲県立大洗高校 授業の様子

【先生に話を聞きました】

Q 生徒の英語力向上のため授業で心がけていることは？

A 生徒目線で教えることが大事だと思います。生徒が言いたいこと、知りたいことを英語で表現できるようにする授業を心がけています。生徒たちには英語を使って自分の考えを言えるような視野の広い人間になってほしいです。



中澤 啓子教諭

グローバル社会で活躍するために

グローバル社会に対応し活躍するためには、広い視野から自分の郷土や国、国際社会を理解し、それを英語で表現し伝えることが必要です。県では児童生徒が英語でコミュニケーションを図る能力の醸成のための事業を行っています。

●英語インタラクティブフォーラム

中学生の部では3人のグループに分かれ、与えられたテーマに基づいて英語で話し合いを行います。高校生の部ではテーマに沿って英語でプレゼンテーションを行います。すべて英語で行われ、英語を使った双方向、対話的なコミュニケーションを図る力を身につけることが期待できます。



▲英語インタラクティブフォーラム
(中学生の部) 県大会の様子

●高校生国連グローバルセミナー

県内の高校生を対象に、東京の国連大学において国連大学教授の講義や留学生とのディスカッションなどをすべて英語で行います。英語によるコミュニケーション

ン能力の向上だけでなく、国際的な問題について生徒自らが解決策を考え、英語で表現することを通じて、グローバルな視野を身につけることを目的としています。参加した生徒からは「様々な国の方と交流し、英語が話せれば、世界中の人とつながることができることを知りました」という感想が聞かれました。

●高校生英語実践力向上事業

高校生が英語で本県観光地のガイドを体験することで、本県の自然や歴史・文化を学び、茨城を愛する心を育むとともに、生徒の英語実践力を育てることを目的にしています。6月に講演会を行って、国際的に通用するおもてなしの心について学びました。また、夏季休業中に、県内の観光地(袋田の滝、筑波山、牛久大仏、鹿島神宮)を訪れて、ALT(外国語指導助手)に、英語で観光地のガイドすること、実践的なコミュニケーション能力を育んでいきます。

【生徒に話を聞きました】
Q 今回の研修を今後どう役立てていきたいですか。

A 自分の思いを英語にすることが思ったより難しかったです。東京オリンピックもあり、今後は外国の方と話す機会が増えてくると思うので、まずは少しでも英語で話すことを意識していきたいです。



県立並木中等教育学校 5年 呉 夢季さん

関係者
義務教育課 029-301-5226
高校教育課 029-301-5260